

第 163 回 学長定例記者会見

日時：令和6年1月29日（月）11：00～11：30

場所：広島大学 東広島キャンパス 法人本部棟 5階 5F1 会議室

※ テレビ会議システムにより、記者会見の様様を同時配信

受信場所：霞キャンパス 臨床管理棟 3階 大会議室

※ YouTube による録画配信を実施

【発表事項】

1. 令和6年能登半島地震における本学の主な対応について
2. 広島大学ダイバーシティ&インクルージョン推進機構設置記念式典・記念講演会・広島大学・国立特別支援教育総合研究所共同シンポジウム「ダイバーシティ&インクルージョンから築くウェルビーイングの未来～人間の幸福と持続可能な成長を実現できる共生社会の形成に向けて～」を開催します（3/24 開催）
3. 米国ペンシルベニア大学医学部の臨床実習へ、本学医学部生を初めて派遣します

【お知らせ事項】

1. 「放射線災害・医科学研究拠点」が国際シンポジウム・ワークショップを開催します（2/15-16 開催）
2. AMED の次世代医療機器連携拠点整備等事業の採択を受け、医療・ヘルスケア機器の開発に繋がる「医療現場からのニーズ発表会」を開催します！（2/29 開催）
3. 分野不問の研究ポスター発表&学際共創ネットワーク「The 3 Questions 全国キャラバン（中国地区編）」を開催します（3/3-6 開催）
4. 【最新研究紹介】ツキノワグマの生息検出とマッピング、その出没予測システムを作製

■次回の学長定例記者会見（予定）

日時： 令和6年2月27日

場所： 広島大学 東広島キャンパス

令和 6 年 1 月 2 9 日

能登半島地震における本学の主な対応について

能登半島地震で被災された方にお見舞い申し上げます。一日も早い復旧に向け、本学もできる限りの支援を行う所存です。

令和 6 年 1 月 1 日以降、広島大学が対応した内容を下記のとおり報告いたします。（詳細は、大学HPをご覧ください。）

記

1. 学長を本部長とする「災害対策本部」の設置
1月4日（木）に災害対策本部（令和6年能登半島地震）を立ち上げ、これまで9回開催し、被害状況や本学の対応等を共有し、その対応状況を随時公式ウェブサイトで発信しました。
2. 本学の学生・教職員の被害状況の把握
1月2日（火）に学生・教職員に対し、安否確認を行い、現時点で負傷者はいませんが、実家の全壊等の被害がありました。
3. 医療活動支援関係
広島大学病院から、DMAT（災害時派遣医療チーム）延べ3班 14人を派遣したほか、他の医療チームも引き続き派遣しています。

【派遣状況】

・ DMAT（災害時派遣医療チーム）

日程	派遣先	派遣人数
2024/1/11～1/18	能登中央医療圏活動拠点本部	5
2024/1/16～1/23	能登町保健医療福祉調整本部	5
2024/1/26～1/31	能登町保健医療福祉調整本部	4

・ JRAT（日本災害リハビリテーション支援協会）

日程	派遣先	派遣人数
2024/1/23～1/28	穴水町・輪島市	6

・ JMAT（日本医師会災害医療チーム）

日程	派遣先	派遣人数
2024/1/28～2/1	石川県内避難所	4

・ DICT（災害時感染制御支援チーム）

日程	派遣先	派遣人数
2024/1/30~2/1	未定	1
2024/2/3~2/5	未定	1

・ 災害支援ナース

日程	派遣先	派遣人数
2024/1/17~1/21	石川総合スポーツセンター	2

・ JDAT（日本災害歯科支援チーム）

日程	派遣先	派遣人数
未定	未定	未定

4. 学生支援関係

- ① 移動が困難になり授業に出席できないなど、修学支援が必要となった学生への支援
- ② 被災された世帯の学生に対し、経済支援等の相談窓口を設置
- ③ 被災された世帯の学生への経済支援制度等について周知
- ④ 災害によるところへの影響についての相談窓口を設置
- ⑤ 被災された本学志願者に対し、入学志願者用相談窓口を設置
- ⑥ 就職活動等に支障が生じた学生への相談窓口等について周知

5. 災害義援金募金活動

令和6年1月4日（木）から1月31日（水）までに集まった募金を、本学被災者の支援や日本赤十字社へ寄託する予定です。
今後も継続して募金活動を行っていきます。

6. その他

大学院人間社会科学研究科の後藤秀昭（ごとうひであき）准教授、熊原康博（くまはらやすひろ）准教授らが参画する令和6年能登半島地震変動地形調査グループ（日本地理学会）は、能登半島の海岸線の変化について発表しました。

【お問い合わせ先】

財務・総務室総務・広報部総務グループ リスク担当主幹 渡邊 敏 TEL:082-424-4419 FAX:082-424-6020
--

名称(略式)	組織概要
JMAT(日本医師会災害医療チーム)	<p>被災者の生命及び健康を守り、被災地の公衆衛生を回復し、地域医療の再生を支援することを目的とする災害医療チーム。</p> <p>主に災害急性期以降における避難所・救護所等での医療や健康管理、被災地の病院・診療所への支援(災害前からの医療の継続)等を担う。</p>
JRAT(日本災害リハビリテーション支援協会)	<p>災害弱者、新たな障がい者、あるいは被災高齢者の生活不活病への予防し、自立生活を再建、復興をめざしていけるように、安心、安全且つ、良質なリハビリテーション支援を受けられる制度や体制の確立を目的とする災害リハビリテーション支援チーム。</p> <p>主に避難所・救護所等での環境調整による生活不活発病予防、健康支援、義肢装具の管理、日常生活動作の支援等を担う。</p>
DICT(災害時感染制御支援チーム)	<p>避難施設等における感染制御活動を支援するために日本環境感染学会が主体となって感染制御の実務経験者により編成される職能集団</p>
DMAT(災害時派遣医療チーム)	<p>医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外の医療食及び事務職員)で構成され、大規模災害や多数傷病者が発生した事故などの現場に、急性期(おおむね48時間以内)から活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チーム。</p> <p>主に、広域医療搬送、域内搬送、被災病院の支援、現場活動等を担う。</p>
災害支援ナース	<p>看護職能団体の一員として、被災した看護職の心身の負担を軽減し支えるよう努めるとともに、被災者が健康レベルを維持できるように、被災地で適切な医療・看護を提供する役割を担う看護職。</p>
JDAT(日本災害歯科支援チーム)	<p>災害発生後おおむね72時間以降に地域歯科保健医療専門職により行われる、緊急災害歯科医療や避難所等における口腔衛生を中心とした公衆衛生活動を支援することを通じて被災者の健康を守り、地域歯科医療の復旧を支援することを目的として、日本災害歯科保健医療連絡協議会が創設。</p>
DPAT(災害派遣精神医療チーム)	<p>自然災害や航空機・列車事故、犯罪事件などの集団災害の後、被災地域に入り、精神科医療および精神保健活動の支援を行う災害派遣精神医療チーム。</p> <p>主に避難所・救護所等での精神科医療の提供、医療機関等への専門的支援、支援者(地域医療従事者・救急隊員、自治体職員等)への支援等を担う。</p>



高校生・受験生の方

広大へ留学希望の方

一般・地域の方

企業・研究者の方

卒業生の方

保護者の方

大学案内

入試情報

教育・学生生活
・就職

研究

社会・産学連携

留学・国際交流

学部・大学院等

研究所・施設等

Home > 令和6年能登半島地震による海岸地形変化(速報)を発表しました

広報・報道

採用情報

校友会・同窓会

広島大学基金

図書館・博物館等

きてみんさいらボ

東京オフィス

大学病院

附属学校

学外の方が利用できる施設

オンラインキャンパスツアー

キャンパスカメラ

学内ポータル もみじ
(学生向け) いろは(教職員向け)

X(旧Twitter)日本語版

X(旧Twitter)英語版

Facebook日本語版

Facebook英語版

Instagram

YouTube

LinkedIn

公式アカウント一覧

令和6年能登半島地震による海岸地形変化(速報)を発表しました

人間社会科学研究科の後藤秀昭准教授、熊原康博准教授、山中蛭JSPS特別研究員と中田高広島大学名誉教授らが参画する令和6年能登半島地震変動地形調査グループ(日本地理学会)は、「令和6年能登半島地震」に伴って生じた、能登半島の海岸線の変化について報告しました。

令和6年能登半島地震による海岸地形変化の検討結果(第二報) (7.19 MB)

令和6年能登半島地震による津波浸水範囲の検討結果(第三報) (2.58 MB)



本調査では、地理院地図で公開されている被災後に撮影された空中写真や人工衛星の画像データなどから、総延長約300kmの海岸線の被災後の変化を読み解きました。

調査の結果、能登半島北岸に沿って広い範囲で海岸線が沖に向かって前進し、陸化したのが認められました。

また、海岸が沈降した可能性がある場所が少なくとも2カ所あることも判明しました。

調査グループでは、今後、情報の精度をあげて更新する予定です。

更新した場合、その地理データ(kml ファイル【Google Earth 用】、geojson ファイル【地理院地図用】、shp ファイル【その他 GIS ソフト用】)は(公社)日本地理学会の web サイト(<http://ajg-disaster.blogspot.com/>)に随時掲載していきます。

お問い合わせ先

広島大学大学院人間社会科学研究科 後藤秀昭
E-mail hgoto * hiroshima-u.ac.jp (* は半角@に置き換えて送信してください。)

掲載日：2024年01月10日





[サイトマップ](#) | [交通アクセス](#) | [お問い合わせ](#)

高校生・受験生の方
広大へ留学希望の方
一般・地域の方
企業・研究者の方
卒業生の方
保護者の方

大学案内
入試情報
教育・学生生活
研究
社会・産学連携
留学・国際交流
学部・大学院等
研究所・施設等

広報・報道
採用情報
校友会・同窓会
広島大学基金
教育研究支援財団
図書館・博物館等
大学病院
附属学校

[サイトポリシー](#) [プライバシーポリシー](#)

Copyright © 2003- 広島大学





防災・減災研究センター

Home > 防災・減災研究センター > 令和6年能登半島地震による海岸地形変化を発表しました（続報）

センター長挨拶
概要
研究者一覧（分野別）
調査・研究・受賞紹介
オープンディスカッション
ががら山実証実験プロジェクト
地域との連携
防災シニア・フェロー
アクセス

令和6年能登半島地震による海岸地形変化を発表しました（続報）

人間社会科学研究科の後藤秀昭准教授、熊原康博准教授、山中蛭JSPS特別研究員と中田高広島大学名誉教授らが参画する令和6年能登半島地震変動地形調査グループ(日本地理学会)は、「令和6年能登半島地震」に伴って生じた、能登半島の海岸線の変化について報告しました。（続報）

最新の地理データ(kml ファイル【Google Earth 用】， geojson ファイル【地理院地図用】， shp ファイル【その他 GIS ソフト用】)は(公社)日本地理学会の web サイト(<http://ajg-disaster.blogspot.com/>)からご覧ください。

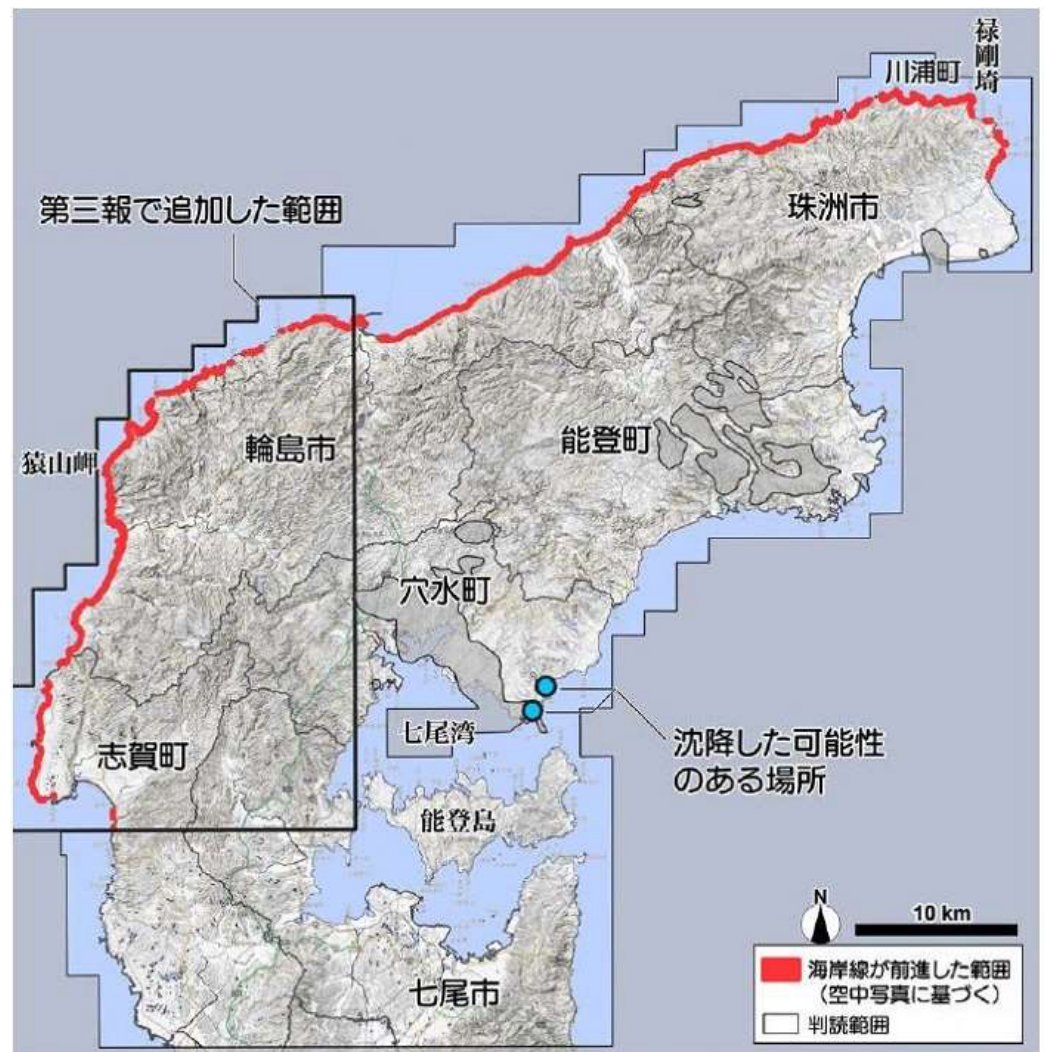
- 令和6年能登半島地震による海岸地形変化の検討結果（第三報）（578.39 KB）▶
- 令和6年能登半島地震による津波浸水範囲の検討結果（第四報）（2.26 MB）▶

PDF オープンディスカッション 2021 実施報告書



広島県防災Web ▶

気象庁 今後の雨（降水短時間予報）▶



地震後に陸化した範囲（能登半島北部）



青色の範囲は地震によって新たに「陸化」したエリア（輪島市市門前町黒島町）

お問い合わせ先

広島大学大学院人間社会科学研究科 後藤秀昭

E-mail hgoto*hiroshima-u.ac.jp（*は半角@に置き換えて送信してください。）

掲載日：2024年01月18日

防災・減災研究センター

〒739-8527 東広島市鏡山一丁目4番1号 A2棟5階

TEL:082-424-4312 / 082-424-5871

E-mail:hrrc@hiroshima-u.ac.jp

[サイトマップ](#) | [交通アクセス](#) | [お問い合わせ](#)



[サイトポリシー](#) [プライバシーポリシー](#)

Copyright © 2003- 広島大学

第 163 回学長定例記者会見 発表事項 2

令和 6 年 1 月 29 日

広島大学ダイバーシティ&インクルージョン推進機構設置記念式典 記念講演会
広島大学・国立特別支援教育総合研究所共同シンポジウム

ダイバーシティ&インクルージョンから築く
ウェルビーイングの未来
～人間の幸福と持続可能な成長を実現できる共生社会の形成に向けて～
を開催します（3/24 開催）

この度、広島大学ダイバーシティ&インクルージョン推進機構設置記念式典、記念講演会、広島大学・国立特別支援教育総合研究所共同シンポジウムを開催いたします。国内外のウェルビーイングの専門家が集結し、日本が持続可能な成長を実現し、多様性を認め合い、より豊かで調和のとれた社会を構築するための在り方について議論し、新たなアイデアと取り組みを共有・模索します。多くの方のご参加をお待ちしております。

- 日 時：令和 6 年 3 月 24 日（日）
12：30（開場 12：00）～16：00
- 会 場：広島国際会議場 ひまわり（広島市中区中島町 1-5）
- 主 催：広島大学ダイバーシティ&インクルージョン推進機構
- 共 催：国立特別支援教育総合研究所

プログラム：

- I ダイバーシティ&インクルージョン推進機構設置記念式典
挨拶：越智 光夫 学長
来賓挨拶：中村 信一 国立特別支援教育総合研究所理事長
機構紹介：鈴木 由美子 機構長
閉会挨拶：石田 洋子 副機構長
- II ダイバーシティ&インクルージョン推進機構設置記念講演会
講師：K. Vish Viswanath 氏（ハーバード大学）
- III 広島大学・国立特別支援教育総合研究所共同シンポジウム
シンポジスト
K. Vish Viswanath 氏（ハーバード大学）
Antti M. Kauppinen 氏（ヘルシンキ大学）

棟方 哲弥 氏 (国立特別支援教育総合研究所)
Joe Hironaka 氏 (UNESCO Regional Office in Bangkok)
保井 俊之 氏 (叡啓大学)

参 加 費：無料

定 員：400名 (先着順)

※広島大学ダイバーシティ&インクルージョン推進機構：

2023年4月に新たに設置しました。

※ダイバーシティ&インクルージョン：

ダイバーシティとは、民族、国籍、性、年齢、障がいや病などの状況、宗教、政治信条、価値観、専門性、職業、ライフスタイル、経験など、属性や背景や見方の面で多様な人々が、集団に存在している状況を指し、インクルージョンとは、こういった多様な一人ひとりが個性や視点や能力を尊重され、十全とした自分として、対等に集団に参加できている状況を指します。

【お問い合わせ先】

ダイバーシティ&インクルージョン推進機構
TEL:082-424-7952 FAX:082-424-3480





広島大学ダイバーシティ&インクルージョン推進機構設置記念式典 記念講演会
広島大学・国立特別支援教育総合研究所共同シンポジウム

ダイバーシティ&インクルージョンから築く ウェルビーイングの未来

～人間の幸福と持続可能な成長を実現できる共生社会の形成に向けて～

2024年3月24日(日)

12:30(開場12:00)～16:00(閉場16:30)

会場：広島国際会議場 ひまわり (広島市中区中島町1-5)

主催：広島大学ダイバーシティ&インクルージョン推進機構

共催：独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

開催趣旨：ウェルビーイングの概念は、従来の成長指標を超え、主観的な幸福や社会的な結束を重視する新たなパラダイムへの移行が求められています。このシンポジウムでは、国内外でウェルビーイングに関する教育・研究に携わる専門家が集結し、日本が持続可能な成長を実現し、多様性を認め合い、より豊かで調和のとれた社会を構築するための在り方について、ウェルビーイングの概念を中心に議論し、新たなアイデアと取り組みを共有・模索します。

プログラム

I. 広島大学ダイバーシティ&インクルージョン推進機構設置記念式典

挨拶 越智 光夫 学長

来賓挨拶 中村 信一 国立特別支援教育総合研究所理事長

機構紹介 鈴木由美子 機構長

閉会挨拶 石田 洋子 副機構長

II. 広島大学ダイバーシティ&インクルージョン推進機構設置記念講演会

講師 Dr. K. Vish Viswanath ハーバード大学

III. 広島大学・国立特別支援教育総合研究所共同シンポジウム

挨拶 中村 信一 国立特別支援教育総合研究所理事長

来賓挨拶 石田 善顕 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長

シンポジスト

Dr. K. Vish Viswanath ハーバード大学

Dr. Antti M. Kauppinen ヘルシンキ大学

棟方 哲弥 国立特別支援教育総合研究所

Mr. Joe Hironaka UNESCO Regional Office in Bangkok

保井 俊之 叡啓大学

参加費
無料

手話通訳

日英
同時通訳

参加対象：ウェルビーイングに関心を持つ企業経営者・
企業家・研究者・政府関係者・一般市民

定員：400名(先着順)

お申し込み： **要事前申込**

事前登録者には、3月23日～25日の間
広島平和記念資料館への入場が無料となる
ご案内をします。(開館時間8:30-18:00)

申込方法

右記ウェブサイトからお申込みください。

(申込締切：2024年3月15日(金))

※座席に限りがあるため定員になり次第
申込終了となる場合があります。



お問い合わせ：d-and-i-event@hiroshima-u.ac.jp



令和 6 年 1 月 29 日

米国ペンシルベニア大学医学部の臨床実習へ、 本学医学部生を初めて派遣します

【ポイント】

- 医学部の岡崎咲代子(医学科 5 年生)さんを、米国屈指の名門私立大学連合 (アイビー・リーグ) の 1 つ、ペンシルベニア大学医学部へ初めて派遣します。
- ペンシルベニア大学は、北米で最初に医学部を設置した大学として知られ、医学部は、全米トップにランクされています。
- 留学プログラムのひとつ「医学部医学科臨床実習等派遣プログラム」を活用しました。
- 期間は、2024 年 2 月 26 日から 3 月 22 日まで 1 か月間、心臓外科で実習します。

【概要】

- ペンシルベニア大学は、北米で最初に医学部を設置した大学として知られ、医学部はハーバード・メディカル・スクール、ジョンズ・ホプキンス大学医学部、ニューヨーク大学・グロスマン医科スクールなどと並び、全米トップにランクされています。
- 本学は、ペンシルベニア大学医学部と 2018 年 10 月に研究者・学生交流や共同研究で部局間協定を締結していますが、これまで米国の教育制度の違いや、高い英語力などから、派遣は実現していませんでした。臨床実習には高度な英語力が必要で、同大学医学部の実習には、TOEFL*2 で 100 点以上 (120 点満点中) の英語力が求められます。
- 今回の派遣は、留学プログラムのひとつ、海外で医学科の臨床実習を希望し、その能力があると認められた学生を、最大 2 か月間派遣する「医学部医学科臨床実習等派遣プログラム*1」を活用しました。期間は 2024 年 2 月 26 日から 3 月 22 日までの 1 月間です。この臨床実習は、本学の授業科目「臨床実習 II」の単位に加算されます。
- 岡崎さんは、「心臓外科で実習します。勉強に非常に熱心でレベルの高い環境で、実践的な知識と手技を学び、自分の可能性を試します。越智学長、諸先生方、国際室のスタッフの皆さんへ感謝し、精一杯頑張ります」と意気込みを語りました。広島大学では、岡崎さんに続き、新たなことに挑む学生を今後も支援していきます。

【用語解説】

*1: 医学部医学科臨床実習等派遣プログラム

2023 年度に開始。医学科 6 年次生における臨床実習において、海外への派遣を希望し、その能力があると認められた者は、海外協定校で実習ができる留学プログラム。学業成績等の条件を満たす者(若干名)には、渡航費も支援する。

*2: TOEFL (Test of English as a Foreign Language)

1964 年に ETS(1947 年に創設された米国ニュージャージー州に拠点を置く非営利の教育団体)が、英語を母語としない人々を対象に開発した世界基準の英語能力測定試験。(TOEFL® テスト日本事務局の HP より抜粋)

【お問い合わせ先】

広島大学 霞地区運営支援部国際室
kasumi-kokusai@office.hiroshima-u.ac.jp





第 163 回学長定例記者会見 お知らせ事項 1

令和 6 年 1 月 2 9 日

「放射線災害・医科学研究拠点」が国際シンポジウム・ワークショップを開催します

広島大学、長崎大学、福島県立医科大学によって平成 28 年 4 月に設置された拠点ネットワーク「放射線災害・医科学研究拠点」は、令和 6 年 2 月に「第 8 回国際シンポジウム」・「第 5 回ワークショップ」を開催します。

第 8 回国際シンポジウム（主管校：長崎大学）

日 時 : 令和 6 年 2 月 1 5 日（木）1 0 : 3 0 ~ 1 8 : 0 5

場 所 : 長崎大学医学部記念講堂（長崎市坂本 1 丁目 1 2 - 4）

「Preparedness for Nuclear Disasters from the Perspective of Medical Science Research（医科学研究の見地から考える放射線災害への備え）」をテーマに、ウクライナ、韓国、台湾、アメリカなどの研究者を交え、講演やセッション、ポスター発表を行います。

放射線や関連諸科学の分野で世界的に著名な研究者による最先端の学術成果を踏まえ、更なる放射線災害・医科学研究の学術的基盤の確立を目指します。

第 5 回ワークショップ（主管校：長崎大学）

日 時 : 令和 6 年 2 月 1 6 日（金）9 : 0 0 ~ 1 2 : 4 5

場 所 : 長崎大学医学部記念講堂（長崎市坂本 1 丁目 1 2 - 4）

全国の関連研究者から公募した共同利用・共同研究課題や 3 拠点機関が大学の枠を超えて連携し新たな課題に取り組んでいるトライアングルプロジェクトの成果発表に加え、拠点ネットワーク間の緩やかな連携に関する講演発表を行います。

【お問い合わせ先】

広島大学霞地区運営支援部総務グループ

放射線災害・医科学研究拠点本部事務局

Tel: 082-257-5186

Fax: 082-255-8339

Preparedness for Nuclear Disasters from the Perspective of Medical Science Research

February 15, 2024

Commemoration Hall
on Sakamoto Campus, Nagasaki University

Keynote Lecture

Dimitry Bazyka (Ukraine)

Session 1

Low dose radiation effects and
health risk study

Won Jin Le
Yu ABE

Session 2

Radiation casualty medicine

Li-Fan Lin
Yukihito Higashi

Session 3

Social impact of a radiation disaster and
radiological protection studies

Hiroshi Yasuda
Rie Mizuki

Session 4

Medical radiation research

Jessica Fleming
Yukie Yoshii

主催 共同利用・共同研究拠点ネットワーク／放射線災害・医科学研究拠点
広島大学原爆放射線医科学研究所／長崎大学原爆後障害医療研究所
福島県立医科大学ふくしま国際医療科学センター

後援 放射線被害者医療国際協力推進協議会 (HICARE)
長崎・ヒバクシャ医療国際協会 (NASHIM)

お問い合わせ先／contact information

長崎大学 生命医科学域・研究所事務部総務課 (企画担当)

Tel: +81-(0)95-819-7195 Mail: gakujuu_kikaku@ml.nagasaki-u.ac.jp



令和 6 年 1 月 2 9 日

AMED¹⁾の次世代医療機器連携拠点整備等事業に採択を受け、
医療・ヘルスケア機器の開発に繋がる
「医療現場からのニーズ発表会」を開催します！

広島大学は、AMED 事業の 1 つ、“次世代医療機器連携拠点整備等事業”に令和元年度採択²⁾され、トランスレーショナルリサーチセンターを中心に関連部局が協力して拠点整備に取り組んで参りました。

このたび、現在最終年度として、医療・ヘルスケア機器の開発に繋がる“臨床現場のニーズ”について発表会を開催します（ひろしま医療機器開発セミナー同時開催）。参加される皆様と一丸となって地域産業の発展の一助となるよう、製品開発を目指していく所存です。医療機器等製品の開発にご興味のあるものづくり企業等、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

1) AMED: 「国立研究開発法人日本医療研究開発機構」医療分野の研究開発およびその環境整備の中核的な役割を担う機関

2) 採択課題名: 「国際競争力を飛躍的に高める普遍的医療機器開発を目指した拠点整備事業」
<https://trc-device.hiroshima-u.ac.jp/>

記

日時：2024 年 2 月 29 日(木) 17:00～19:00（開場 16:30）

会場：広島大学霞キャンパス凌雲棟 R204

（広島県広島市南区霞 1-2-3）

【ハイブリッド開催（会場・WEB）】

定員：会場 100 人／WEB 300 人（いずれも先着順）

参加費：無料

内容：（1）拠点の活動紹介

（2）医療現場からのニーズ発表（3テーマ）

（3）支援プログラムの紹介

（4）対面参加者との意見交換会・ポスターセッション

申込方法：「案内チラシ」の参加申込フォームにアクセス、必要事項を記入の上、2 月 28 日(水)までにお申込みください。

【お問い合わせ先】

広島大学 未来共創科学研究本部研究戦略推進部門

TEL:082-257-1990

E-mail: trc-device@hiroshima-u.ac.jp

令和5年度

広島大学 医療現場からの ニーズ発表会

2/29 木
17:00~19:00
(開場 16:30)

定員：会場100人/WEB300人
【参加費無料・ハイブリッド開催】

会場

広島大学霞キャンパス
凌雲棟R204 (広島市南区霞1-2-3)

プログラム

開会挨拶

トランスレーショナルリサーチセンター センター長

花之内 健仁

拠点の活動紹介

トランスレーショナルリサーチセンター ニーズ探索・育成部門 部門長

繁本 憲文

産学連携部バイオデザイン部門 研究員

管 仕成

医療現場からのニーズ発表

- 『ゲノム医療に必要な病理ティッシュプロセッサの開発』

広島大学病院 診療支援部 病理検査部門 部門長

石田 克成

- 『遠隔診療システムの開発』

広島大学病院 漢方診療センター 研究員

李 弘揚

- 『直腸粘膜生検において確実に組織を視認できる生検補助器具の開発』

広島大学病院 周産母子センター 講師

佐伯 勇

支援プログラムの紹介

広島県・山口県の支援プログラムの紹介

中締め挨拶

トランスレーショナルリサーチセンター ニーズ探索・育成部門 部門長

繁本 憲文

対面参加者との意見交換会・ポスターセッション

ニーズを発表した講師と会場参加の皆様と対面で意見交換できます

広島大学は、AMED事業の1つ、“次世代医療機器連携拠点整備等事業”に令和元年度採択)され、トランスレーショナルリサーチセンターを中心に関連部局が協力して拠点整備に取り組んで参りました。

このたび、現在最終年度として、医療・ヘルスケア機器の開発に繋がる“臨床現場のニーズ”について発表会を開催します(ひろしま医療機器開発セミナー同時開催)。参加される皆様と一丸となって地域産業の発展の一助となるよう、製品開発を目指していく所存です。医療機器等製品の開発にご興味のあるものづくり企業等、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

参加申込

2月28日 正午まで!



- ・スマートフォンをお使いの方
→QRコードをカメラで読みこんでください。
- ・PCをお使いの方
→下記リンクからお申し込みください。
<https://forms.office.com/r/GXiZkpT7xM>



令和 6 年 1 月 2 9 日

分野不問の研究ポスター発表&学際共創ネットワーク
「The 3 Questions 全国キャラバン（中国地区編）」を開催します

分野、組織、世代を超えて研究テーマそのものを深掘りする全国規模の学際的
研究ポスター発表大会「The 3 Questions 全国キャラバン（中国地区編）」が
下記の通り開催されます。主催は国際高等研究所で、本学は共催（幹事校）と
して参画いたします。

本イベントは、約 2 年かけて全国 9 地区にて実施予定で、中国地区での開催
が 1 回目となります。ポスター発表を行う研究者には、「どんな不思議を追っ
ていますか？」などの 3 つの質問に答えてもらい、事務局がその回答をポスタ
ー掲示します。イベント期間中、研究者を含む一般の来場者がポスターに対す
るコメントを付箋紙で貼り、それを事務局がイベント終了後にデータ化し、参
加者同士にオンライン交流システムで意見交換を行ってまいります。

ポスターでは、個別的な研究内容よりも、その目指すところや動機といった、
分野を超えた基礎的、根源的な部分での問い（テーマ）を発表してもらいます。
それにより、参画研究者の研究テーマの深化につなげる他、分野や組織を超え
た共同研究の創出等もねらいます。

記

【日時】2024 年 3 月 3 日（日）～6 日（水）

【会場】広島大学 東千田キャンパス 地域連携フロア SENDA LAB

【対象】どなたでも ※ポスター発表は研究者（博士後期課程の学生含む）

【申し込み】<https://www.ias-3questions.info/tyugoku>

【お問い合わせ先】

学術・社会連携室 未来共創科学研究本部
研究戦略推進部門 宮良/荒木/田中
TEL:082-424-2057/4469、082-257-1990
Email: ura-contact@hiroshima-u.ac.jp



ポスター 受付

2/26(月) まで

とっておきの「不思議」、
求む！

あなたはどんな「不思議」を追っていますか？

「研究テーマ」や「問い」の手前にある
不思議、驚き、探求心--- **WONDER**

ここは、そのWONDERがぶつかり合って
融合や破壊、そして創造が生まれる対話の場

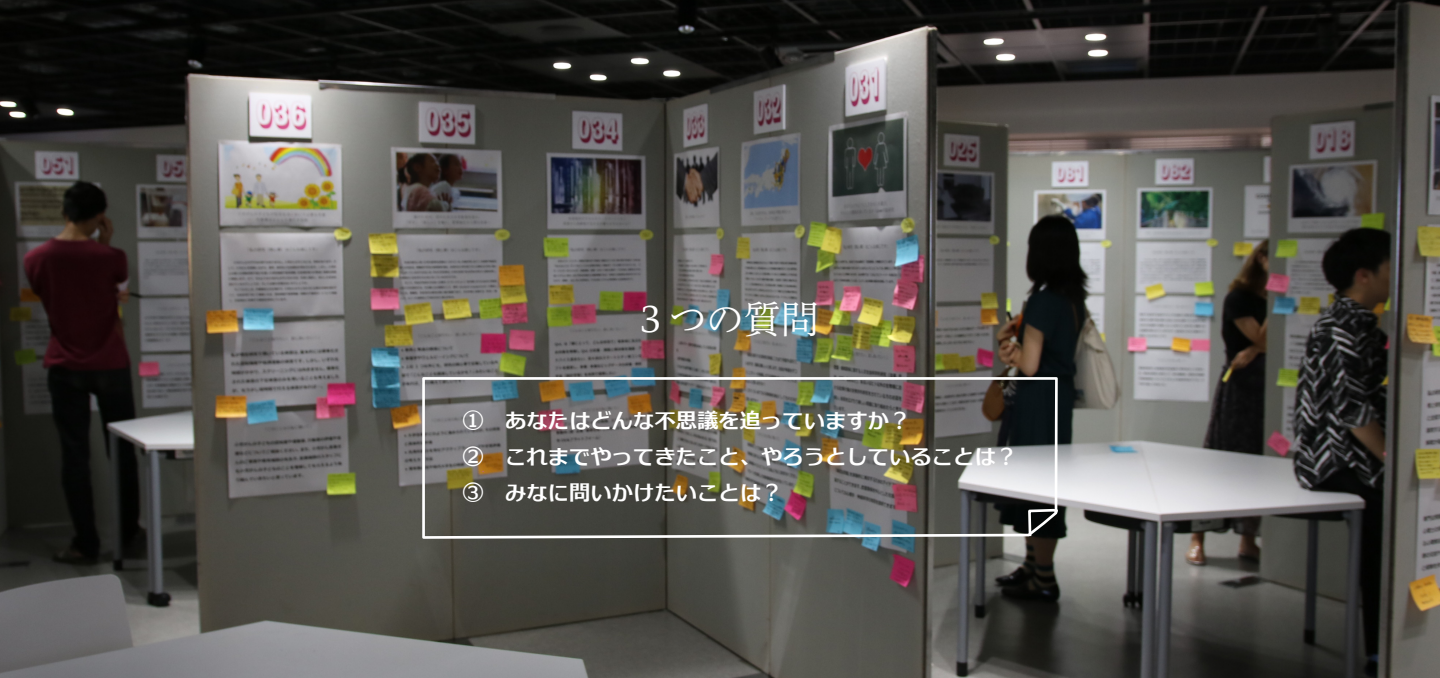
「ひらめき」や「気づき」は
あなたが行動した結果としておとずれる!!
ご応募、お待ちしております

分野不問で、匿名制！ 3つの質問に答えるだけの 研究ポスター発表大会

全国キャラバン 3 QUESTIONS [中国地区編]

2024年3月3日(日)-6日(水)@広島大学 東千田キャンパス

所属組織や専門名だけで内容を判断してしまいがちな先入観を取り除き、本音で意見交換するための数々の工夫をとりいれました。存在すら知らなかった語彙や視点、手法と遭遇し、自身の探求の幅を広げると共に、分野や組織を超えた共同研究の創出をねらいます。



3つの質問

- ① あなたはどんな不思議を追っていますか？
- ② これまでやってきたこと、やろうとしていることは？
- ③ みなに問いかけたいことは？

募集対象：

中国地区の大学、研究機関、高専に所属する教員、研究者、大学院生、高専生（掲載費、無料）

企画来場者：

一般の方、企業、行政、メディア等どなたでも参加可（無料）

研究テーマ数：

100件（先着順）
2月26日（月）
締め切り

日時&場所：

3月3日（日）～6日（水）
4日間の期間中、いつでも来場可。広島大学東千田キャンパス 地域連携フロアSENDA LAB（広島駅からバス16分）

当日準備するもの：

なし！ポスターの印刷は事務局が実施

こんな研究者の方へ

- ・ 自身の研究テーマについて多角的かつ本質的な意見がほしい
- ・ まだ見ぬ出会いにワクワクし、思いもよらなかった新しい発見を求めたい
- ・ このような企画に集う研究者らのコミュニティに参加してみたい
- ・ 本企画に訪れる企業と共同研究につながりたい



存在すら知らなかった語彙や視点に出会う！



地域課題に研究者が応答するパネルも

あなたの得意は誰かの不得意。互いにコメントして助け合い！

詳細 & 申し込み



<https://www.iias-3questions.info/tyugoku>

共通キーワードをもとにしたグループ・セッションもあり！

自分のポスターに付箋が貼られるのは嬉しい！



一般の方も自由に参加し、付箋紙にコメントを！



企画趣旨：今日の学术界および学術行政は、短期的な視野での実施になりがちと学内外から批判されることも少なくはありません。研究者もまた日常業務や業績競争の波に押され、根本から問う姿勢を保てなくなっている傾向があることもまた事実です。今、どの大学（人）も短期的な成果創出のプレッシャーと退治しつつ、学問本来の営みの保持に四苦八苦しているのではないのでしょうか。直接的に役に立つ研究もさることながら、そもそも役に立つとはどういうことか？をも同時に問うことで学術の豊かな土壌は保たれるはず。正直いって、今日、学問の灯火を単独の大学で守るのは難しい。全国規模で学術を掘り起こす必要があるのではないのでしょうか！分野も組織も超えて研究を磨きあう場を、地域の場でいろんなステークホルダーを巻き込んでやってみたい！と考え、本事業の実施に至ります。この挑戦ご一緒頂けませんか？ 研究ポスターの申請、お待ちしております。



令和 6 年 1 月 29 日

ツキノワグマの生息検出とマッピング、その出没予測システムを作製

【本研究成果のポイント】

- 空気（大気）中の環境 DNA（eDNA_{Air}）を回収する装置を作製し、空気中からツキノワグマ DNA を安定して回収できるシステムを完成しました。
- 広島市安佐動物公園のツキノワグマ飼育舎、飼育舎から 75m、150m および 300m 離れた地点で eDNA_{Air} を回収し、ツキノワグマから離れるにつれてツキノワグマ DNA 検出量が少なくなることを実証しました。
- ツキノワグマの生息の信頼性を高めるために、ツキノワグマの痕跡（主にツキノワグマの糞痕とカキなどを食べたあとの食痕）からツキノワグマ DNA を抽出し、DNA により性判別、個体識別および親子鑑定を行い、ツキノワグマの行動テリトリーおよび生態を調べることができました。
- eDNA_{Air} のみならず、DNA よりも空気中に残る時間が短い環境 RNA（eRNA_{Air}）検出システムも作製し、滞在した場所や時間を絞り込むことが可能になりました。
- 環境 DNA は、気温、湿度、風速、風向などの環境要因の影響を受けやすいという課題があり、今後、これらの課題を解決し、ツキノワグマ出没予測マップの作成につなげていきたい。

【概要】

広島大学大学院統合生命科学研究科（大学院スマートソサイエティ実践科学研究院）の西堀正英教授と大学院博士課程前期 1 年の増田和志らの研究グループとつくば遺伝子研究所（茨城県土浦市）の安江博博士の研究グループでは、空気（大気）中の環境 DNA（eDNA_{Air}）を回収する装置を 3D プリンターで市販のパイプとポンプ、流量計を組み合わせて作製し、空気（大気）中からツキノワグマ DNA を安定して回収できるシステムを完成しました（図 1）。

広島市安佐動物公園（広島市安佐北区）で飼育されている西中国山地由来のツキノワグマ 3 頭に対して、本研究で作製して DNA 回収装置を使って、ツキノワグマ飼育舎内、飼育舎から 75m、150m および 300m 離れた地点で eDNA_{Air} を回収し、既知のツキノワグマ DNA 量を基に作成した検量線によりツキノワグマ DNA 量を定量することによって、ツキノワグマから離れるにつれてツキノワグマ DNA 検出量が少なくなることを実証しました（図 1）。

広島大学生命科学研究科



広島市安佐動物公園における
eDNA_{Air} 回収シミュレーション実験

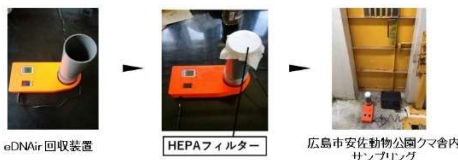


図 1. HEPA フィルターを装着した eDNA_{Air} 回収装置

大気 1800 L を捕集し（約 180 分）
eDNA_{Air} をフィルターに吸着

さらに森林や里山などのフィールドにおけるツキノワグマの生息の信頼性を高めるために、広島市安佐北区および安佐南区農林課、廿日市市吉和支所環境産業建設系の協力を得、ツキノワグマの痕跡（主にツキノワグマの糞痕とカキなどを食べたあとの食痕）約 100 試料を採取し、採取した試料から DNA を抽出し、まずツキノワグマのものであることを PCR を用いて分子動物種判別法によりツキノワグマであることを同定しました。同定したツキノワグマ DNA により分子性判別、個体識別および親子鑑定を行い、これらのこと基にツキノワグマの行動テリトリーおよびその生態を明らかにすることができました。

本システムでは空気中の環境 DNA (eDNAir) のみならず、DNA よりも空気中に残る時間が短いことを実験的に明らかにした RNA について、空気中の環境 RNA (eRNAir) 検出システムも作製しました。eDNAir と eRNAir の同時検出によりツキノワグマが生息あるいは滞在した場所や時間を絞り込むことが初めて可能になりました。

ただし空気中の環境 DNA は、気温、湿度、風速、風向などの環境要因の影響を受けやすいという課題があり、今後はこれらの課題を解決し、ツキノワグマ出没予測マップの作成と実用につなげていき、ツキノワグマ出没予測情報の提供に貢献していきたい。

なお、本研究の成果と概要は、2023 年 11 月 16 日に日本 DNA 多型学会第 32 回学術集会下関大会で公開し、11 月 7 日の中国新聞朝刊、12 月 13 日の RCC 中国放送イマナマ！で紹介、放送されました。

【背景】

近年、広島県を初めとする中国地方ではツキノワグマの生息数の増加が報告されており、とくに 2023 年は堅果類の結実度の低下による凶作の影響もあり、人の生活圈や市街地にツキノワグマが出没し、その目撃数が増加（大量出没）しました。そのため不意にツキノワグマに会ってしまい、人身被害や人身事故に繋がることもあり、繰り返し社会問題になってきました。

そこで広島大学、つくば遺伝子研究所および広島市安佐動物公園では、ツキノワグマの大量出没に伴う人身被害や事故を未然に防ぐことを目標にして、環境 DNA を使ったツキノワグマの生息場所を検出し、その情報をマッピングすることで、ツキノワグマの出没を予測するシステムの作製を試みました。ツキノワグマの生息を検出する対象は、空気中に存在するツキノワグマ DNA とし、これを検出し活用します。このように空気、水や土壌中などの環境中に存在する DNA を一般に環境 DNA (eDNA) と称され、特に水中の生物調査ではよく知られており、川などの水の中にある糞や皮膚片、体液などの分泌物に含まれる DNA の量を調べ、どのくらいの密度で生物が生息しているのかいるのかを推定します。ツキノワグマの大量出没の年や地域を予測する技術は、国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所を中心に、大量出没に伴う被害を未然に防ぐことを目的として、大量出没のメカニズムを解明した上で開発が進められていますが、環境 DNA を指標にしたツキノワグマ生息推定ならびに出没予測について研究およびその実用は全くおこなわれていません。そこで私たちの研究グループでは、空気中の環境 DNA (eDNAir) を指標としたツキノワグマの生息を検出するシステムの開発とその成果を地図上にマッピングし、それを基にツキノワグマの出没を予測システムの作製に着手しました。

【研究成果の内容】

空気（大気）中の環境 DNA (eDNAir) を回収する装置を 3D プリンターで市販のパイプとポンプ、流量計を組み合わせて作製し、空気（大気）中から約数百から数千リットルの空気を DNA が吸着するフィルターを使って回収し、その eDNAir の中からツキノワグマ DNA を安定して回収でき、その量を定量できるシステムを完成しました。

広島市安佐動物公園（広島市安佐北区）で飼育されている西中国山地由来のツキノワグマ3頭に対して、本研究で作製してDNA回収装置を使って、ツキノワグマ飼育舎内、飼育舎から75m、150mおよび300m離れた地点でeDNAAirをフィルターを使って回収し、既知のツキノワグマDNA量を基に作成した検量線により回収したeDNAAir中のツキノワグマDNA量を定量することに成功しました。ツキノワグマから離れるにつれてツキノワグマDNA検出量が少なくなることを実証しました。

さらに森林や里山などのフィールドにおけるツキノワグマの生息の信頼性を高めるために、ツキノワグマの痕跡（主にツキノワグマの糞痕とカキなどを食べたあとの食痕）約100試料を採取し、採取した試料からDNAを抽出しました。これを基にしてまずツキノワグマのものであることをPCRを用いて、分子動物種判別法によりツキノワグマであることを同定しました。同定したツキノワグマDNAにより分子性判別、個体識別および親子鑑定を行い、これらのこと基にツキノワグマの行動テリトリーおよびその生態を明らかにすることができました。

本システムでは空気中の環境DNA（eDNAAir）のみならず、DNAよりも空気中に残る時間が短いことを実験的に明らかにしたRNAについて、空気中の環境RNA（eRNAAir）検出システムも作製しました。これらのことから、eDNAAirとeRNAAirの同時検出によりツキノワグマが生息あるいは滞在した場所や時間を絞り込むことが初めて可能になりました。

【今後の展開】

本出没予測システムでは、ツキノワグマeDNAAir（環境DNA）を対象とすることで、気温、湿度、風速、風向などの環境要因の影響を受けやすいという課題があり、今後はこれらの課題を解決し、ツキノワグマ出没予測マップの作成とその実用に繋げていき、ツキノワグマ出没予測情報の提供に貢献していきます。あわせて、西中国山地のツキノワグマの生態を広く知ることによって、その出没予測の精度を高めていきます。さらに、本システムの空気中の環境DNA検出システムを使えば、すでに目撃情報のない絶滅危惧種と探索あるいは犯人捜査への応用が考えられ、今後、それらを研究する研究グループとの共同研究等を推進していきたい。すでに広島県における絶滅危惧Ⅰ類に指定されているニホンリスの生息を本システムを応用して突き止め、自動撮影カメラにてニホンリスの生息活動動画の撮影に成功した。

【参考資料】

- 空気中の環境DNAを用いた野生動物生息モニタリングシステムの構築. 西原幹朗・西堀正英・野田亜矢子・畑瀬淳・安江博. DNA多型. 31(1): 34-38. 2022.
- 中国新聞 2023年11月7日朝刊
(<https://www.chugoku-np.co.jp/articles/-/382120>)
- RCC 中国放送イマナマ!
(https://m.youtube.com/watch?v=fT6EbDOxk4g&list=PLHrCoVBA_kkpZwlrOQeYWS2TUK7e_POQ2&index=3)

【2023年度学会における公表：7件】注：広島大学所属は太字

- ① The eDNA Society International Meeting
Kazushi Masuda, Mikio Nishihara, Fumika Ito, Masahide Nishibori, Jun Hatase, Ayako Noda, Hiroshi Yasue. Development and practice application of Asian Black Bear (*Ursus thibetanus*) monitoring methods using airborne eDNA (eDNAAir). The eDNA Society International Meeting. 2023年5月17日. Otsu, Japan.
- ② ICAFT2023
Kazushi Masuda, Mikio Nishihara, Masahide Nishibori, Ayako Noda, Jun

Hatase, Hiroshi Yasue. Establishment of a DNA individual identification method for Asian Black Bears (*Ursus thibetanus japonicus*) based on non-invasive sampling. International Conference on Agriculture, Animal Sciences & Food Technology (ICAFT2023). 2023年8月27日. Universiti sultan Zainal abidin, Malaysia.

③ 日本哺乳類学会 2023 年度大会

増田和志・伊藤文香・西堀正英・安江 博・野田亜矢子・畑瀬 淳. 西中国山地におけるツキノワグマ糞を用いた個体識別から行動生態を明らかにする. 日本哺乳類学会 2023 年度大会. 2023 年 9 月 8 日. 琉球大学、沖縄.

④ 日本 DNA 多型学会第 32 回学術集会

増田和志・廣瀬雅恵・西堀正英・安江 博. 空气中環境 DNA (eDNAir) の DNA 多型から野生動物の生息および野生動物相をモニタリングする. 2023 年 11 月 16 日 17 日. 下関市、山口.

【日本 DNA 多型学会優秀研究賞受賞】

⑤ 日本動物遺伝育種学会第 24 回年次大会

増田和志・西堀正英・畑瀬 淳・野田亜矢子・安江 博. 非侵襲的サンプルを用いたツキノワグマ個体識別モニタリングの実践. 2023 年 11 月 18 日. 東海大学、熊本.

⑥ 第 6 回環境 DNA 学会九州大会

Kazushi Masuda, Masahide Nishibori, Hiroshi Yasue. Development of a wildlife population analysis method in the field using airborne nucleic acids (eNAirs). 2023 年 12 月 2 - 5 日. Fukuoka, Japan.

⑦ Plant and Animal Genome (PAG) Conference 2024 (PAG31)

⑧ Kazushi Masuda, Masahide Nishibori, Fumika Ito, Ayako Noda, Jun Hatase, Hiroshi Yasue. Molecular Monitoring of Urban Bear Distribution Using Environmental DNAs. Plant and Animal Genome (PAG) Conference 2024 (PAG31). 2024 年 1 月 12 - 17 日. SanDiego, USA.

【お問い合わせ先】

大学院統合生命科学研究科 西堀正英

Tel : 082-424-7992

E-mail : nishibo@hiroshima-u.ac.jp

